

農園通信

2022年11月・12月

発行・問合せ先：島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

カメムシ注意報発令(8月)・農作物に被害

特にアフリカ原産のミナミアオカメムシに注意。ミナミアオカメムシはもともとは熱帯系の昆虫で日本では九州南部や四国南部、紀伊半島南部に生息が限られていましたが、近年温暖化にともなって生息地域が拡大しています。6, 7月(第1世代)はトマト、8, 9月(第2, 3世代)は稲、10, 11月(第4世代)は大豆を食害します。稲刈り後、大豆(枝豆)に大移動するので要注意です。大豆は「畔豆(あぜまめ)」と呼ばれ、千年の歴史を持つ稲作とともに栽培されてきましたが、熱帯系の昆虫による食害には困りましたね。



幼虫

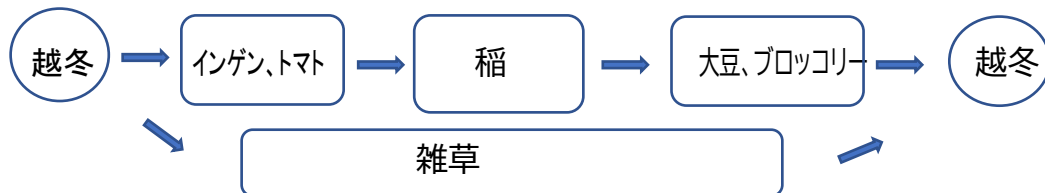


幼虫



成虫

ミナミアオカメムシ



「農」の世界を映像化 「百姓の百の声」

映画監督：柴田昌平 **映画『百姓の百の声』公式 HP** <https://www.100sho.info/>

農業はよく、TPPとか耕作放棄地とかの「問題」として語られたり、逆に、自然農とかIターン就農とか「ユートピア」として語られたりします。しかし、それらからは実際の生産者である農家の顔が見えてきません。この映画は農家自らが語る「農」の世界です。(京都シネマ 11/18~、大阪第七藝術劇場 11/19~上映) 《農業新聞での紹介より》



農家の知恵を記録したドキュメンタリー映画。私たちは当たり前のこととして、毎日食べ物を食べています。多くの消費者にとって、食べ物はスーパーで買う「物」です。柴田監督は、食べ物を作る農業や農家が見えにくくなっていないか、遠い存在となっているのではないかと感じていました。農家のことをきちんと知りたい、…足かけ3年、全国の農家を訪ね歩きました。

《農文協・編集局長 百合田敬依子さんによる紹介より》

よく、「顔の見える野菜」とかっていいますが、これまでのっぺらぼうだった「農家」の顔が具体的に浮かび、声が聞こえるようになれば、わざわざそんな言い方する必要もなくなるんじゃないかな…

《柴田監督》

3年にわたる取材を経て見えてきたこと——そこには、どんな逆境でも生きのびていく力と、ユーモアがありました。持続可能な社会を築いていく知恵に満ちていました。

農園利用希望の方へ……農園の空き情報のお知らせ

<問合せ先> 島本町農業振興団体協議会・町民農園部会
(福田) fukudaka@amail.plala.or.jp

9月・10月号表面のつづき
冬のアブラナ科は
アブラナ科の虫対策いろいろ… 虫との戦い



家庭菜園の人に
聞いてみました

- (Sさん)野菜作りは全くの初めてでしたが、ブロッコリーやキャベツはネットさえ掛ければ虫にもやられず立派な野菜が出来ました。ブロッコリー、キャベツは初心者むきですね。
- (Oさん)無農薬栽培を基本にしています。作物をよく観察して害虫が見られたらその都度取り除くとか、できるだけ害虫が発生しない時期に栽培します。ただ、大根に限って、種を撒くときは、他の畑で害虫被害が見られる場合はダントツ粒剤(クロチアニジン)を土に混ぜることがあります。
- (Nさん)ブロッコリーのところを耕していたらネキリムシ(カブラガヤの幼虫)が4~5匹出てきました!!! しっかり苗に首輪を取り付けましたが、まだまだ出てきそうで不安です(;´д`) 周りにいたカエルが一匹食べようと格闘していました。思わず頑張れ!と応援しちゃいました。(笑) 雑草を生やしすぎて虫が増えたのでしょうか?(#ネキリムシ被害は、苗に首輪をつけるとほぼ完ぺきに防げます。)
- (Yさん)大根は10月初めに種まき後不織布をべた掛けして10cmに育つまでそのまま。10月末に不織布を外して追肥。葉はダイコンサルハムシに食べられて穴があいていますが、これだけ大きくなっていれば虫に負けない。大根を無農薬で作るには、8月末に種を蒔くか、10月以降に種を蒔くか。ダイコンサルハムシの活動の活発な時期(9月中、下旬)を避けます。
- (Hさん)・キャベツ、白菜、ブロッコリーはポット苗を作り9月末に畑に植えます。同時に防虫ネットをかけ、殺虫剤(オルトラン液)を1回、ネットの上から散布します。・大根、聖護院蕪、小蕪は9月末に畑に直播きします。同時に防虫ネットをかけ、発芽して間引き後に上記の殺虫剤を1回、ネットの上から散布します。・チンゲン菜、小松菜、水菜は10月中旬以降に畑に直播きします。この場合防虫対策はしません。
- (Iさん)出来るだけ薬を使いませんが、大根は種まきの前にオルトラン粒剤を使います。
- (Fさん)25年間無農薬で野菜を作っています。なぜ無農薬栽培を続けてきたかという、それは面白かったからです。相手は「害虫」という一括りではなく、虫それぞれに名前があり、どういう時期にどういう食害をするのか個性があります。ですから、対策はそれに合わせてやればよい。(時期、空間、物理的)家庭菜園の規模なら意外と無農薬でやっていける。
畑は命がいっぱい!害虫を見つける虫目(むしめ)を持つことは楽しいです。
- (Yさん)今年は大根で苦労しました。🐛 しょっぱなにシンクイムシ(ハイマダラノメイガの幼虫)の大量発生、それはピンセットで何とか取り除きました。それで、蛾の侵入を防ぐために慌てて防虫ネットを掛けました。ところが大根が大きくなってそのままにしていたので風通しが悪くなり、ネットの中でアブラムシが大発生。少なからず手で潰しあとはテントウムシ(テントウムシはアブラムシを大量に食べる)に任せていけませんが、全体に広がってしまうと薬を使うしかない。殺虫剤:クロチアニジン スプレーを使いました。

アブラナ科以外の
レタス、菊菜、ホウ
レンソウ、玉葱等
は虫が付きにく
いので平和です。
夏野菜の虫害も
そう心配要ら
ないです。



旬の一品



柿とサラダ水菜のサラダ: 柿50gは皮つきで薄くくし形に切る。サラダ水菜・サニーレタスは合わせて100gを適当な大きさに切る。
ドレッシング=サラダ油大1、酢大1、砂糖小1/2、塩・コショウ少量
#柿は「医者いらず」と言われるほど栄養豊富。一個で1日分のビタミンCが摂れる。他にβカロテンやタンニンなども豊富。